

NEWS RELEASE

No. 19-12

2019年8月20日

(公財)損害保険事業総合研究所

損保総研レポート第128号を発刊し、以下の2つのレポートを掲載しました。

- ◆ インシュアテックにおける新たなビジネスモデル
ーブロックチェーンを利用した補償等の展開と課題ー
- ◆ 保険業界における保険金詐欺対策の動向
ー米国における不正検知システムの利用を中心にー

公益財団法人 損害保険事業総合研究所（理事長 佐野 清明）では、研究員による調査研究の発表の場として機関誌「損保総研レポート」を定期刊行しています。

今号（第128号）では、次のレポートを掲載するとともに、海外の金融・保険市場の動向等を紹介しています。

<レポート>

- ◆ 『インシュアテックにおける新たなビジネスモデル
ーブロックチェーンを利用した補償等の展開と課題ー』

（特命部長兼グループリーダー 主席研究員 牛窪 賢一）

ブロックチェーンについては、様々な業界のビジネスモデルを変革し得る革新的な技術であるとの見方がある一方、実務的にどの程度役立つのか等、不明な部分も多いのが実態です。そのような状況下、広範な業界において様々なプロジェクトが進行しています。

保険・補償に関しても、ブロックチェーンを利用し、保険会社のような管理主体を必要としない分散型補償等の新たなビジネスモデルの構築に取り組む動きがあり、本稿ではこのようなスタートアップ企業の事例を中心に紹介します。

分散型補償等については、コストの低減等多くのメリットが主張されている反面、様々な課題があります。このため、現時点では、既存の保険会社を脅かすような事業が展開される見通しは立っていない状況です。しかしながら、課題解決に向けた取組も進められており、本稿では、このような課題および解決に向けた取組についても紹介します。

なお、2019年6月18日に Facebook を中心とする新たな仮想通貨リブラ（Libra）の計画が公表されました。これは Visa、Mastercard、Uber Technologies 等も参加する大規模なプロジェクトであり、仮にリブラの利用が広範に普及した場合には、保険・補償商品の開発にも大きな影響を及ぼす可能性があるため、他の仮想通貨と比較したリブラの特徴等も取り上げています。

◆ 『保険業界における保険金詐欺対策の動向

－米国における不正検知システムの利用を中心に－』

(主席研究員 笠原 康弘)

保険金詐欺は、保険監督者国際機構（IAIS）の保険基本原則（ICP）にも監督課題の1つとして取り上げられており、保険会社にとって重要な問題です。中でも保険金支払は、保険の真価が発揮されると同時に、様々な動機や形態の保険金詐欺の被害にさらされる機会でもあります。

わが国では、日本損害保険協会を中心とした情報交換制度や通報制度を設け、不正請求の防止に取り組んでいます。一方、米国では保険金詐欺を専門に取り扱う公共機関や民間団体、法律が設けられ、不正請求の防止や摘発に取り組んでいます。また、米国の保険会社では、公共機関や民間団体が提供するデータベースや、先進技術を用いた保険金詐欺検知システムの活用が進んでいます。

本稿では、米国の事例として、利用可能な情報源や技術の発達とともに、複数の技術を組み合わせて改善されてきた保険金詐欺検知システムの概要、および保険詐欺対策連盟（CAIF）が実施した同システム活用に関する調査の内容について紹介しています。

<その他>

◆ 金融・保険市場におけるトピックス

損保総研レポートは、当研究所ウェブサイトより、PDF形式で無償にて閲覧・ダウンロードいただけます。なお、冊子版の販売は2019年6月19日をもって終了いたしました。

(<https://www.sonposoken.or.jp/reports/>)

本件に関するお問い合わせ先

〒101-8335 千代田区神田淡路町2-9
公益財団法人 損害保険事業総合研究所
研究部 安田 (TEL : 03 - 3255 - 1761)

この資料は、保険関係業界紙各社へ同時に配付しております。

損保総研レポート第128号 目次

- インシュアテックにおける新たなビジネスモデル
ーブロックチェーンを利用した補償等の展開と課題ー
(執筆者 特命部長兼グループリーダー 主席研究員 牛窪 賢一)
《目次》
1. はじめに
 2. ブロックチェーン、スマートコントラクト等の概要
 3. ブロックチェーンを利用した分散型補償等の事例
 4. ブロックチェーンを利用した分散型補償等の課題と解決に向けた取組
 5. おわりに
- 保険業界における保険金詐欺対策の動向
ー米国における不正検知システムの利用を中心にー
(執筆者 主席研究員 笠原 康弘)
《目次》
1. はじめに
 2. 保険金詐欺をめぐる状況
 3. 保険金詐欺の発生動機
 4. 保険金詐欺の検知技術
 5. 不正検知システムの利用状況と効果・課題
 6. おわりに

以上